人文分野の調べ方

令和○年度講師派遣研修

国立国会図書館　利用者サービス部　人文課

1

1

本日の内容と目的

（内容）

1．レファレンス・サービスとは
2．レファレンス・ツールとは
3．レファレンス・ツール紹介（例題）
4．演習
5．質疑応答

（目的）

- 人文分野のレファレンス・サービスの特徴を把握する。
- 多種多様なレファレンス・ツールを使った調べ方を身に着ける。

2

2

1．レファレンス・サービスとは（1）定義

- 図書館員が、図書館利用者に対し、求められている情報や資料を提供・提示することによって援助すること 。

（日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』丸善, 2013, p.255.）

※資料・情報源に答えさせる（refer）のがポイント。

3

3

（2）レファレンス・サービスの種類

（国立国会図書館の場合）

- 利用案内：閲覧、複写、図書館間貸出し、その他国立国会図書館の利用案内
- 所蔵調査：資料を国立国会図書館で所蔵しているかどうかの調査
- 所蔵機関の調査：当館以外の所蔵機関の紹介
- 書誌的事項の調査：書名、著者名、出版事項、巻号、収載ページなどの調査
- 簡易な事実調査：参考資料を利用して行う事実調査
- 検索の支援：資料の検索方法についての援助
- 文献紹介：特定主題に関する図書館資料の紹介
- 類縁機関案内：適切な回答を得られる他の機関などの紹介

4

4

※回答を行わない事項など

- 古書・美術品などの鑑定、良書推薦、学習課題・懸賞問題に関する調査、身上・医療・法律相談、文献の解読・翻訳、プライバシー侵害にあたる調査は、回答を行わない。
- 著しく経費や時間を要する調査、調査研究の代行、合理的な検索手段のない調査は、回答を断ることができる。

5

5

（3）レファレンス・プロセス＊

- 質問を受けてから回答するまでの流れ

→質問内容の確認　→**探索方針の検討**　→検索実行

→情報（源）の入手　→回答・提供（→事後処理（統計、記録、情報共有））

自館のコレクションに精通し、使うべきツールを直観的にすぐ判断できることは大事

◇何を調べる？時代は？場所は？主題は？キーワードは？
◇どのツールを使うか？何から調べられるか？何を調べられないか？

＊長澤雅男・石黒祐子『問題解決のためのレファレンスサービス』新版, 日本図書館協会, 2007, pp.57-58.

6

6

（4）国立国会図書館における人文分野

※他分野であっても江戸期以前であれば、基本的に人文分野として扱う。

※資料の種類により、その他の専門室、他館に振り分けられる場合もある。

例）地図資料（地図室）、アジア言語資料（関西館）、児童書（国際子ども図書館）など

専門室（東京本館）	国立国会図書館分類（NDLC）	NDC
議会官庁資料室	政治・法律分野（A、B、C）	
科学技術・経済情報室	経済社会・科学技術分野（D、E、F、M、N、P、R、S）	
人文総合情報室	人文・総記分野 G（歴史・地理） H（宗教・哲学） K（芸術・言語・文学） U（学術一般・ジャーナリズム・図書館・書誌）	000総記 100哲学（除心理学） 200一般史 380民俗 700芸術（除 スポーツ、音楽） 800語学 900文学
音楽・映像資料室	K（音楽）	

7

7

（5）人文分野のレファレンスの特徴

（国立国会図書館の場合）

- 典拠があいまいなことが多い。（記憶、ネット情報など）
- 絵や写真など、ビジュアル資料を探す質問の増加。
- 最終的には図書館ではなく他の機関（博物館、文書館、市役所など）でないと解決しない問題も多い。（出版物では調査が難しい先祖調べなど）
- 定番の資料だけでなく、他分野も含めて多様な資料で確認する例が多い。（詩人の調査に『日本アナキズム運動人名事典』など）
- 学術文献よりも事実そのものについてのピンポイントな質問が多く、学問成果と利用者の要求に差異がある。（他分野に比べて「簡易な事実調査」が多い）
- **答えに行き当たらないことが多い。**（「合理的に」きちんと探して見つからない、「現状（の情報環境）では」見つからない）

8

8

2．レファレンス・ツールとは
（1）定義

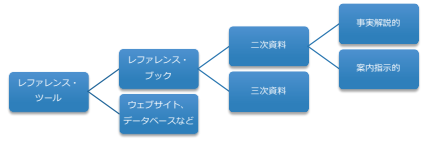
- 質問に回答する際に使うレファレンス資料のこと。
- 冊子形態のレファレンス・ブック（参考図書）だけでなく、デジタル形式の資料、ウェブサイトなども含む。（質問を解決する「道具」としての側面を強調する用語。）

（日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』丸善, 2013, p.256.）

9

9

- レファレンスツール



10

10

（2）レファレンス・ブック（参考図書）＊

- 辞書、事典など、対象分野の関係情報を多数の項目にまとめ、それらを音順や体系順に並べて記述することによって、特定の項目を容易に調べられるようにした図書（特定の情報を求めるときに使用し、全体を通読することは想定されていない）。

- 一次資料⇒オリジナルな情報源（単行本、研究論文、雑誌・新聞記事など）
- **二次資料**⇒一次資料を加工、再編成した記録情報
  - ・事実そのものを調べるツール：辞書、事典、便覧・図鑑、年表・年鑑、地図帳
  - ・情報（資料）の存在を調べるツール：書誌、目録、索引・抄録
- **三次資料**⇒二次資料を加工、編集したもの
  - ・レファレンス・ブックのガイド
  - ・書誌の書誌：資料を探すためのツールを探すためのツール

＊長澤雅男, 石黒祐子共著『レファレンスブックス：選びかた・使いかた』新訂版, 日本図書館協会, 2015. pp.4-14

11

11

（3）人文分野のレファレンス・ツールの特徴

- 息が長いレファレンス・ツールが多い。

→ 『古事類苑』、『国史大辞典』など。古いツールは、イロハ順、旧仮名遣い、略語、増補部分や図版部分が別立て、などに注意が必要。

- データベースの多くが紙時代に由来。

→国書データベース（『国書総目録』＋『古典籍総合目録』）など。

- ツールの整備が進んでいない分野や切り口がある。

→サブカルチャーやテレビドラマなど。意外に日本史も網羅的な検索ツールはない。

- 辞書・事典によって語釈や解説の重点の置き方が異なるので、複数ひき比べる必要あり。

→『日本歴史地名大系』と『角川歴史地名大辞典』など。

12

12

（４）人文総合情報室でのレファレンス・ツールの整備（レファレンス・ブック編）

- 情報室に開架する資料の選定

→納本され整理された資料を、毎日の「選書」作業で、手に取ってチェックし、人文総合情報室に開架するかを判断する。

→以前は、レファレンス・ブックのみを開架していたが、画像レファレンスや先祖調べの増加に伴い、レファレンス・ブック以外の資料も開架するケースが増えている。

※レファレンス・ブックを選ぶポイント

情報の収録範囲、記述の詳しさ、項目の選び方、排列、検索手段（索引など）、造本、信憑性、出版者、編集者、出版年、版、図版の有無、出典の有無、参考文献の有無　など

13

13

（ウェブ情報、データベース編）

- 人文リンク集の維持管理（2階層で一覧、検索画面へ直接リンク）

→ネット検索、レファ協、他機関のリンク集などから新規リンク先の開拓

→既存のリンク先の便利な使い方、新しい機能の発見

- リサーチ・ナビ（国立国会図書館サーチ）内のコンテンツの作成

→「日本人名情報索引（人文分野）」＊

→「参考図書紹介」（『日本の参考図書　四季版』）＊

→調べ方に関する記事（一部リーフレット版の「パスファインダー」も作成）

＊は毎日の選書時に採録対象資料を選定している。

14

14

例題１：戦前の資料の所蔵機関調査

- 大正6年（1917年）に出版された薄田泣菫『お伽噺とお伽唄』という本を探している。国立国会図書館サーチやCiNii Booksを検索すると、1978年にほるぶ出版から刊行された復刻版を所蔵している機関はいくつもあるが、オリジナルの所蔵機関はないのか。

→戦前の資料を多く所蔵している機関のOPACを検索する。

15

15

例題２：和古書の所蔵機関調査

- 滝沢馬琴著『南総里見八犬伝』の自筆本の所蔵機関を知りたい。

→和古書の総合目録である日本古典籍総合目録を検索する。古典籍はデジタル化されていることも多いので、デジタル化の有無も確認すると良い。

16

16

例題３：記事索引・目次

- （柱に「機の音」、ページの見出しに「坊主の酒もり」とあるコピーを持参して）５年ほど前に国立国会図書館でコピーしたのだが、タイトルがわからない。何というタイトルの本か特定したい。新潮社の詩集だったような気がする。

→目次や内容から本の書名を特定する。

17

17

専門図書館の雑誌記事索引を使う。

専門図書館の雑誌記事索引は、特定の分野の雑誌を詳細に検索することができる。

（例）

- 川喜多記念映画文化財団 データベース　映画雑誌の特集名
- 印刷博物館ライブラリー　印刷や出版に関する業界誌など
- 旅の図書館（日本交通公社）　旅行雑誌・ガイドの目次、特集名が検索可
- JCIIライブラリー（日本カメラ博物館）　「フリーワード検索」で主要誌の目次検索可

範囲が限られている分、きめ細やかに採録。検索方法や結果の見方がわかりにくいこともあるが、うまく活用すると便利。

18

18

例題４：人物調査・人物文献索引

- 幕末の佐渡で国学者をしていた蔵田茂樹という人物について書かれている文献はないか。

→新潟の人物文献目録・データベースはないか。国立国会図書館の「地方史に関する文献を探すには」の中の「1-3. 地域別」の項目を確認する。

19

19

例題５：文学・翻訳書誌

- 源氏物語はチェコ語に翻訳されているか。されているようならその所蔵機関を知りたい。

→日本文学の外国語訳を調べるときは何を用いるべきか。

20

20

演習問題

- 演習問題１～８のうち、自由に３問選択して挑戦してください。
- 最後に全ての問題の回答例を配布します。

21

21

演習１：戦前の和雑誌の所蔵機関調査

- 雑誌『史談文芸』(大正6年)を探している。4,5月号に鳥居龍蔵「オロッコ族」が掲載されているらしい。国立国会図書館サーチやCiNiiでは該当号が見当たらなかった。

22

22

演習２：和古書（複製）の所蔵機関調査

- 『範永朝臣集』の宮内庁書陵部本を影印でみたい。以下のものは、口絵写真が少しあるだけで、中身は活字だった。

『桂宮本叢書：図書寮所蔵』 第3巻 (私家集 第3)　宮内庁書陵部 編. 養徳社, 1952

23

23

演習３：内容から本を探す

- ある短編小説が、なんの単行本に入っているか知りたい。1970年代～80年代の作品で、タイトルは「桜売（さくらうり）」。著者は覚えていない。

24

24

演習４：宗教関係の資料の所蔵機関調査

- 図書か雑誌記事かわからないが、久野芳隆「浄土観念の吟味と仏の弁証法的考察」の所蔵機関を知りたい。

25

25

演習５：人物に関する文献紹介

- 長州出身で伊藤博文らとともに英国留学した山尾庸三（子爵）の肖像はないか。

26

26

演習６：演劇に関する簡易な事実調査

- 昭和14年3月初演の「ふるさと紀行」という演劇について調べている。配役や公演日数などを知りたい。

27

27

演習７：美術に関する簡易な事実調査

- 洋画家　硲（はざま）伊之助が二科賞を受賞した作品名を知りたい。

28

28

演習８：古写真に関する所蔵機関調査

- 明治時代の東大寺大仏殿の写真を見たい。確か、明治後期に修復をしているはずなので、修復前のなるべく古い写真が見たい。

29

29

ありがとうございました。

30

30